

平成29年11月11日

平成29年度 中信地区学校図書館教育研究大会実施報告(大北支部)

- 1 研究テーマ 「自ら学び、豊かな心を育てる図書館教育はどうあったらよいか」
- 2 主催 長野県図書館協会小・中学校部会 同部会大北支部
- 3 日時 平成29年10月24日(火) 9:25～15:15
- 4 会場 小谷村立小谷小学校 小谷村立小谷中学校
- 5 後援 長野県教育委員会 小谷村教育委員会 北安曇校長会 北安曇教育会
- 6 日程

| | 内容 / 場所 | 小谷小学校 | 小谷中学校 |
|-----|----------|------------------------------|-------------|
| (1) | 受付 | 9:30～9:45 | 9:25～9:40 |
| (2) | 公開授業 | 9:55～10:40 | 9:50～10:40 |
| (3) | 図書館見学、休憩 | 10:45～11:05 | 10:45～11:05 |
| (4) | 授業研究会 | 11:10～12:30 | 11:10～12:30 |
| (5) | 昼食 | 12:30～13:30 (昼食後、小谷小学校へ車で移動) | |
| (6) | 開会行事 | 13:35～13:45 小谷小学校 多目的ホール | |
| (7) | 講演会 | 13:50～15:00 | 〃 |
| (8) | 閉会行事 | 15:05～15:15 | 〃 |

7 公開授業・授業研究会

| 授業学年 | 単元名 | 授業者 | 指導者 | 司会者 |
|---------|----------------------------------|-------|------------------------|------------|
| 小谷小学校4年 | 「にこにこ大作戦」総合的な学習 (保育園児への読み聞かせ) | 大日方秀守 | 総合教育センター専門主事 依田学先生 | 石川敏幸 教頭 |
| 小谷中学校全校 | 「ミニビブリオバトル」 特別活動 (生徒会活動) | 北澤 泰三 | 中信教育事務所指導主事 千野布美子先生 | 丸山伸一 教頭 |

8 講演

演題 『中学生の読書指導』『小学生の読書指導』

講師 越高一夫先生 越高令子先生 ちいさいおうち書店

9 参加者人数

小学校公開授業…27名 中学校公開授業…35名 講演会…66名

10 参観者の意見・感想

(1) 小谷小学校公開授業について

- ・交流を通して表現力を育むという研究の方向はとても良いと思う。実際の人とのかかわりの中で、相手意識や表現する力は高めたりつけていったりすることができると思う。目的や振り返りで、教師の出について研究を深める必要はあるかもしれない。



- ・「喜ばせたい」という目的意識が全ての子どもたちの朗読の力を高めていた。間違いなくこの学習でついた力である。ふり返りを子どもの自力で行いたい。
- ・総合的な学習での年長さんとの交流、本を使っての読み書かせ、子どもたちの工夫の仕方、先生の声かけ、大変参考になりました。真剣に年長さんに読み聞かせをしていた姿、丁寧に読む姿、年長さんが喜んでもらえるように、ペープサートを使って距離を縮めようとしている姿、優しい声掛けをしている姿、どれも印象的でした。こんな工夫をしたら目の前にいる年長さんが喜んでくれるか考えたのだと、この交流でわかったように感じます。
- ・本を媒介として園児と交流することで、他人を思いやる気持ち、工夫をする大切さ、より本に親しむこと、文章の理解と様々な学びができることは大変良いと思う。園児が本を取り上げ見入ってしまったも、待ってあげてまた読み始めた T 君のような余裕のある態度の4年生が多く感心しました。2年かけ、継続的に活動している成果と思われます。

- ・しっとり落ち着いた雰囲気の中で行われていた読み聞かせは本当に素晴らしいものでした。子どもたちそれぞれが、相手の側に立って考え工夫されたものでした。全体の中の自己表出は苦手なのかもしれませんが、「静かに燃える」子どもたちであったように思います。

(2) 小谷中学校公開授業について

- ・中学生ぐらいになると、自分の意見を言うことや自分の好きなものごとについて話すことが恥ずかしいと感じる子も多い。そんな中で、一冊の本を通して自分の考えや感じたことを他の人にも伝え、共感を生む“ミニビブリオバトル”はとても素敵である。
- ・読書への関心・意欲づくりとして互いに本を紹介しあうことは有効な活動であり、本の魅力を語るために本の内容を読み込んで自分の生き方まで考えられるという点では、見方、考え方を深め広げていくには大変良い活動である。
- ・異学年が混ざっているとは思えない和やかな雰囲気だからこそ、自分の好きな本を自分の言葉で、語る生徒が多かった。聞き手の問いかけは上級生が慣れていてその姿から学ぶ生徒がいると思う。
- ・バトラーも聞く側の生徒も落ち着いて、ていねいに話し、よく聞いていました。事前の授業の中で、キャッチコピー、ポップ、学習カード等で、準備していると思いますが、3分より前に話が終わってしまう生徒も少なかったように思います。
- ・声量、話し方については今後繰り返していく中で、相手意識に立った発表ができると思う。
- ・ミニビブリオバトルの発表で、互いの発表の仕方を評価しあったり、なぜその本を選んだのか話し合ったりする時間があると更に双方のコミュニケーションになったのではないかな。



(3) 図書館の環境について

- ・素晴らしい図書館環境です。子どもたちのそばに図書館が常にある。その利を生かし、子どもたちの心を動かす展示、掲示がされています。また、情報、調べ学習のセンター的役割のシステムができていて、今後の教育につながるスペースになっていました。
- ・学校の中心に図書館がある設計に、本を大切に作る姿勢が集約されていて羨ましい限りです。「子ども部屋に本棚を、机上に辞書を」とはよく言われているが、学校という建物自体が体験してるかのようです。

(4) 講演会について

- ・児童へどうアプローチしたらよいかわからない本の紹介の仕方がよくわかりました。ぜひチャレンジしてみたいです。
- ・読みやすさ重視で選書しがちな先生が多いというお話を伺ってハッとしました。社会問題を取り扱った本も、こちらの紹介の仕方で手に取ってくれる子がいるかもしれません。ビブリオトークを試したいと思います。
- ・ご夫婦での講演会は初めてでしたが、さすがというような掛け合い、読み聞かせの実演でした。それぞれの読書指導の仕方やブックトーク、導入の仕方、勉強になりました。
- ・子どもたちが興味を持ち、「読みたい」という気持ちになるための本の紹介の仕方をいくつも教えていただいた。読み聞かせだけで終わらず、「自分で読む」ことができる子どもになるように実践に生かして行きたい。
- ・絵本から一人読みに移行する際に「詩」を使って言葉遊びをすること、言葉のリズムの面白さ、音読をすることで、言葉のリズムの楽しさが分かるようになるというお話を聞いて、大変参考になりました。



1 1 まとめ

- 小中学校共に、本を媒介として他者につながる学習活動を展開することで、相手の立場に立って考え、自らを高めようとする子どもの姿に出会えた大会となった。
- 講演会を通して、明日からの読書指導に役立つ材料を得ることのできた大会となった。